

ASEAN 大使通信

第 30 回 日 ASEAN 協力からパートナー連携へ

2025 年（令和 7 年）5 月 28 日



AZEC 議員連盟とカオ・キムホン ASEAN 事務総長の会談
(2025 年 5 月 5 日、於 ASEAN 本部事務局、ASEAN 事務局提供)

4 月末から 5 月初めの大型連休は、多くの日本の要人が外国を訪問する時期です。ジャカルタでは、4 月末の江藤拓農水大臣（当時）に続き、5 月初めには岸田文雄総理特使を団長とする AZEC 議員連盟一行が来訪し、インドネシア要人やカオ・キムホン ASEAN 事務総長と会談、ERIA を視察しました。

翌週は、13 日に ASEAN 政府間人権委員会（AICHR）と日本の年次協議、14 日に日 ASEAN 医療機器規制シンポジウムが開催されました。さらに翌週は、20 日にカオ・キムホン ASEAN 事務総長を公邸に招いての夕食会、21 日に ASEAN ブルーカーボン・ファイナンス事業開始式典、23 日に ASEAN 防災人道支援調整（AHA）センターの幹部研修修了式が相次いで開催され、最終週の 28 日には ASEAN 首脳会議の成果報告ブリーフィングに出席しました。

一連の行事を通じて、日 ASEAN 協力の深化を基盤に、今後は幅広いパートナーとの連携推進が重要と感じました。今回の大使通信では、行事を紹介しながら、パートナーとの連携推進について皆さんと一緒に考えたいと思います。



AZEC 議員連盟とカオ・キムホン ASEAN 事務総長の会談
(2025 年 5 月 5 日、於 ASEAN 本部事務局、ASEAN 事務局提供)

●AZEC 議員連盟のジャカルタ訪問

5 月 3 日から 7 日まで、石破茂総理の特使及びアジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）議員連盟の最高顧問として、岸田文雄前総理が AZEC 議連訪問団とともにインドネシア（ジャカルタ）とマレーシア（クアラルンプール）を訪問しました。

ジャカルタでは、インドネシア関連の要人との会談や視察に加え、5 日に[カオ・キムホン ASEAN 事務総長と会談](#)を行い、私も同席しました。岸田総理特使から、AZEC の協力をさらに推進するため AZEC 議員連盟を設立した旨述べた上で、両者は、アジア地域の脱炭素化に向けて意見交換を行いました。カオ・キムホン事務総長は[冒頭発言](#)で、「日本が主導する AZEC にほぼ全ての ASEAN 加盟国が積極的に参加していることは、日 ASEAN 双方が持続可能な低炭素社会の実現を決意していることの証左である。」と述べ、AZEC の取組を歓迎しました。

同 5 日、岸田総理特使は東アジア ASEAN 経済研究センター（ERIA）内の[アジア・ゼロエミッションセンターも視察](#)し、脱炭素に向けた AZE センターのビジョンや、その実現に向けたロードマップについて説明を受けました。



第4回日 AICHR インターフェース

(2025 年 5 月 13 日、於 ASEAN 本部事務局、ASEAN 事務局提供)

●ビジネスと人権分野での日 ASEAN 協力

5 月 13 日、ジャカルタの ASEAN 本部事務局での AICHR（ASEAN 政府間人権委員会）総会の機会に、日本との年次協議「[日 AICHR インターフェース](#)」が昨年引き続き開催されました。今回が第 4 回になります。

私と各国 AICHR 代表（大使級）の間で、これまでの日 AICHR 協力を振り返るとともに、AICHR の 5 カ年計画及びテーマ別優先分野や私からの[問題提起](#)を踏まえ、今後の協力の方向性について意見交換を行いました。その結果、「ビジネスと人権」分野を中心テーマに据えて、より社会的・経済的インパクトが高く効率性の高い複数年プロジェクトや、国際機関をはじめ幅広い関係機関の知見を活かす形のプロジェクトを今後形成していくこと、そして日 AICHR 協力サイクルに沿った形で日 AICHR 協力を深めていくことで[意見が一致](#)しました。

「ビジネスと人権」分野の専門家である JETRO アジア経済研究所の山田美和主任研究員は、「日本政府および日本企業が、『ASEAN 各国の政府・企業が人権への取り組みを進めることが、同地域に進出する日本企業をも利する』というロジックで各国政府や企業などの関係者と向き合い、協力して環境づくりを進めていけば、ASEAN の人権課題の改善、解決に結びつき、日本企業としても、きちんと人権尊重の責任を果たすことができる。」と[提言](#)しています。

私も 3 月に一時帰国した際に、日本の関係者にこの分野での日 ASEAN 協力について[講演](#)を行いました。今後も取組をさらに進めていきたいと思えます。



日 ASEAN 医療機器規制シンポジウム（2025 年 5 月 14 日、於市内ホテル）

●医療機器分野での日 ASEAN 協力

5 月 14 日、インドネシア保健省、インドネシア大学（UI）及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）の 3 者共催、日 ASEAN 統合基金（JAIF）の支援で、[日 ASEAN 医療機器規制シンポジウム](#)が市内のホテルで開催されました。会場には約 400 名、オンラインもあわせて約 1000 名が参加する大規模な行事でした。

このシンポジウムは、翌日からの 2 日間のセミナーとともに、日本と ASEAN における医療機器規制に関する知識と経験を共有し、能力強化を行うためのプラットフォームを提供するものです。これを通じて、規制調和に関する理解を深めるとともに、ASEAN 地域における安全、効果的かつ先進的な医療機器への公平なアクセスを確保することに貢献することを目指しています。

保健省からはダンテ・サクソノ・ハルボノ保健副大臣が出席し、開会挨拶を行いました。同副大臣は山梨大学への留学経験があります。3 者共催の取組の継続による大きな成果を、「石の上にも 3 年」ということわざで説明していたことに強い印象を受けました。

私は[開会挨拶](#)で、このシンポジウムの重要性や、JAIF を通じた継続的な支援、中心的な役割を果たす PMDA の取組について説明しました。開会式後は同副大臣とともに、インドネシア企業が出店する各種ブースを視察したほか、本シンポジウムの記者会見にも参加して、参加企業やメディアの熱気を感じました。



ASEAN ブルーカーボン・ファイナンス事業開始式典
(2025 年 5 月 21 日、於市内ホテル)

●ASEAN ブルーエコノミーの新プロジェクト

5 月 21 日、ASEAN・国連開発計画（UNDP）・日本の協力による [ASEAN ブルーカーボン・ファイナンス事業の開始式典](#)が、ジャカルタ市内ホテルで開催されました（[動画](#)）。サトビンダー・シン ASEAN 事務次長、下村憲正 UNDP 所長とともに、私も出席して[開会挨拶](#)を行いました。ASEAN 及び東ティモール各国や官民のパートナー、市民社会組織からも多くの参加者がありました。

[この事業](#)は、2023 年に ASEAN 首脳が合意した [ASEAN ブルーエコノミー枠組み](#)を受けて、2024 年に ASEAN ブルーエコノミー・タスクフォースの下、ASEAN・UNDP・日本が実施した [ASEAN ブルーエコノミー・イノベーション・プロジェクト](#)に続くものです。

今回は、海洋における脱炭素の潜在性に焦点を当てます。ASEAN 加盟国及び東ティモールの 11 カ国の各々について、活用可能なブルーカーボン（マングローブ、海藻・海草等）の調査報告書と、事業化に必要なブルーファイナンス（ブルー債券、ブレンドファイナンス、官民パートナーシップ等）の調査報告書を作成します。さらに、インドネシアのガジャマダ大学や ERIA など、この分野での 50 以上の学術研究機関や 20 人以上の専門家と協働して、実施とスケールアップのためのネットワークを構築します。事業終了は来年 3 月予定です。翌日、[テレビインタビュー](#)も受けました。今後、実施に向けて取り組む考えです。



AHA センター・ACE-LEDMP プログラム修了式
(2025 年 5 月 23 日、於ジャカルタ市内ホテル)

●ASEAN 防災担当機関幹部のリーダーシップ研修

5 月 23 日、日 ASEAN 統合基金（JAIF）により支援を受けた、[ASEAN 防災人道支援調整（AHA）センター幹部研修コース・緊急防災リーダーシップ事業（ACE-LEDMP）の中級レベルコース第 2 バッチ修了式](#)が開催されました。サン・ルウィン ASEAN 事務次長のビデオメッセージ、シトウ・テイン AHA センター運用部長の挨拶の後、私からも[挨拶](#)しました。

今回のコースには、ASEAN 各国の防災担当機関（NDMOs）から 20 名が参加しました。研修員は基本的にジャカルタで対面研修を 5 週間行い、講義やワークショップの受講のみならず、相互に交流して信頼関係を深めました。さらに、1 週間の訪日研修では東京と神戸を訪問し、防災関連の政府機関、国際機関、NGO や各種施設を訪問して意見交換を行い、刺激を受けながら視野を広げました。今回は特別に大阪・関西万博を視察する機会もありました！

今回の研修コースを通じて、各参加者が自らの知見・経験を高めるとともに、今後各国の防災担当機関をリードし、One ASEAN One Response という ASEAN のイニシアティブを推進していくことを期待しています。



カオ・キムホン ASEAN 事務総長との公邸夕食会
(2025 年 5 月 20 日、於 ASEAN 大使公邸、ASEAN 事務局提供)

●日 ASEAN 協力からパートナー連携へ

5 月 20 日には、カオ・キムホン ASEAN 事務総長をはじめ事務局幹部を[公邸での夕食会](#)に招いて、先般の事務総長の大阪・関西万博開会式出席や AZEC 議連来訪のフォローアップ、そして今後の日 ASEAN 協力のあり方について意見交換を行いました。その中で、これまでのデジタルやグリーン、人的交流をはじめとする日 ASEAN 協力を基盤に、ASEAN 主導枠組みや AOIP を活用することで、パートナーとの連携をさらに深めていくことの重要性を感じました。

翌週の 5 月 26 日～27 日、クアラルンプールで ASEAN 首脳会議、ASEAN・GCC 首脳会議、ASEAN・GCC・中国首脳会議が開催されました。5 月 28 日にはジャカルタの ASEAN 本部事務局で、カオ・キムホン ASEAN 事務総長から[一連の首脳会議の成果報告ブリーフィング（動画）](#)が行われ、私も出席しました。今回の首脳会議の最大の成果は、[ASEAN 共同体ビジョン 2045 と 4 つの戦略計画](#)の採択・発表です。ASEAN が掲げる新たなビジョンの下で、日本が先頭に立つ形で、パートナーシップの輪を広げていきたいと思います。

ASEAN 代表部大使
紀谷昌彦